

魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:岩井 祐一

所属:東京学芸大学附属特別支援学校

記録日:2021年2月19日

キーワード:自尊感情の向上、余暇支援、基礎学力向上

【対象児の情報】

・学年:特別支援学校高等部2年生

・障害名:知的障害

・障害と困難の内容

<基礎学力>

・足し算、引き算、かけ算の筆算や電卓の使用ができる。

・アナログ時計を正確に読める。

<国語的能力>

・小学校3年生程度の漢字をおおむね読むことができる。

・小学校1年生程度の漢字をおおむね書くことができる。

・経験したことや感想などを、文章で表現したり口頭で発表したりすることができる。

<指示理解>

・日常生活においては、口頭の指示でおおむね理解することができる。

・日常の挨拶や返事は自分からできる。大きな声を出すことを、本人も意識して取り組んでいる。

・照れ屋で控えめだが、自分の興味のある話題に関しては、積極的に伝えようとする。

<性格、行動面>

・真面目で何事にも真剣に取り組む性格であり、作業においても前向きな態度で、課題を遂行しようとする意欲が高い。

・知的好奇心旺盛で、大変意欲的に授業に取り組んでいる。特に読書が好きである。その他、パソコン、ギター、ドラム、筋トレなどにも積極的に取り組む時期もある。

・優しく穏やかな性格で、友達との関係も良好ではあるが、時折、噂話をされているのではないかと、悪口を言われているのではないかと心配になったり、不安定になることがある。

・控えめで照れ屋な性格もあり、我慢したり感情を抑えたりする傾向がある。ただし話を聞くと、自分の気持ち等をかなりの確に説明することはできる。

・周りの友達の様子や出来事をよく観察し、自分のこととして学習する力が高い。(同じ失敗を繰り返さないようにする。)

・分かりやすい手順や、スモールステップで行っていけば、自信をもって取り組める。

・過去の経験などから、自信のなさや初めての環境で、緊張が高くなる。称賛されることで意欲が高まり、期待に応えようとさらに努力するタイプ。

<その他>

・療育手帳所持

【活動目的】

・当初のねらい

<p>①学校生活を通して、自尊感情を高める。</p>	<p>好奇心が有り何事もまじめに取り組もうとする一方、他人の様子などを意識していることから慎重な側面もうかがえる。過去の中学校における経験から自尊感情が低かったり、自己表現することへの自信のなさや表出する表現の少なさもあると考えられる。そこで、「自尊感情」の観点について、学校生活を通して高めることができればと考える。</p>
<p>②余暇の幅を広げるための基礎学力の向上を図る。</p>	<p>興味の幅もかなり広くあるため、高等部卒業後も余暇の幅を広げて様々な体験ができるようにしたい。現在の困りとして、本を読むことは好きだが、漢字が読めないのでもくまに進まない、ということがあるので、漢字学習なども取り入れながら進めたい。また、昨年度取り組んでいた検定試験についても引き続き、継続をしたいと考えているので目標としたい。</p>

・実施期間

2020年6月～現在

・実施者

岩井 祐一

・実施者と対象児の関係

担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

○4月より実践であったが新型コロナウイルス感染症による休校にともない、実施開始がおくれた。6月の学校再開後、対象生徒の自尊感情や漢字に関する力を確認するため以下の取組をおこなった。

<p>○Zoom による個別面談の実施(学校再開前)</p>	<p>5月中旬より、オンラインによる取組が許可されたため、対象児童へは5月20日より計3回の個別面談ならびにクラス HR を実施。保護者も交えた面談などからは、休校期間での不安要素は「生活リズムが乱れていること」であり、読書・音楽(聴くこと・ギター)・絵を描く・料理など、自分なりに時間を決めて有意義な時間を過ごせている、という状況であった。</p>	
<p>○「私のハート」</p>	<p>学校再開後、生徒の心の状況を確認するため「私のハート」を実施。ハートの枠が書かれた用紙に、最近や今の自分の気持ちを色で表すというワークをおこなった。対象生徒が作成したのが右写真である。高校2年生への期待やがんばれる気持ちを「ピンク」で表しているのに対して、半分が「黒色」で将来などへの不安や悩みを表現している。この絵は、クラス全員と共有した【図1】。</p>	 <p>【図1】私のハート</p>

○「漢字検定過去問」

基礎学力の向上の一環として、漢字学習に取り組むこととなった。今の実力ならびに今後の参考とするため、2019年度第1回目に実施された漢字検定の過去問を実施。結果は以下の通りであった。

【8級】の点数内訳

読み	画数	対義語	偏と旁	同音異字	送り仮名	音訓	書き	合計
25/30	4/10	8/10	6/20	2/20	8/10	9/10	10/40	72/150

【9級】の点数内訳

読み①	画数	読み②	はね、とめ	音訓	書き①	偏と旁	対義語	書き②	合計
19/22	6/10	8/8	4/4	7/10	6/6	18/20	18/20	46/50	132/150

【参考】合格基準：満点150点の8割程度（120点）

【図2 漢字検定の結果】

○「自尊感情尺度（東京都版）の実施」

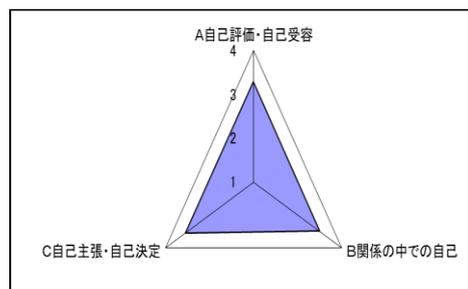
自尊感情について対象生徒の現状を把握するために、東京都が作成した自尊感情尺度を使用して自己評価を実施した（4件法、全22項目）。「自己評価・自己受容」においてはクラス平均が3.0を超えているのに対して、対象生徒は2.5であった。

名前等	問1私は今の自分に満足している	問2人の意見を素直に聞くことができる	問3人と違っても自分が正しいと思うことは主張できる	問4私は自分のことが好きである	問5私は人のために力を尽くしたい	問6自分の中には様々な可能性がある	問7自分にはダメな人間だと思えることがある（#）	問8私はほかの人の気持ちになることができる	問9私は自分の判断や行動を信じていることができる	問10私は自分という存在を大切に思える	問11私は自分と他人の関係を理解している	問12私は自分の長所も短所もよくわかっていく	問13私は今の自分には嫌いだ（#）	問14人に迷惑がかけられないように、いったん決めたことには責任を持って取り組む	問15私には誰にも負けないものがある	問16自分には良いところがある	問17自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している	問18私は自分のことは自分で決めたいと思う	問19私は誰の役にも立っていないと思う（#）	問20私は自分のことを必要としてくれる人がいる	問21私は自分の個性を大事にしたい	問22私は人と同じくらい価値のある人間である
	4	4	3	2	4	4	4	4	2	1	4	4	3	4	4	4	4	2	4	4	4	3

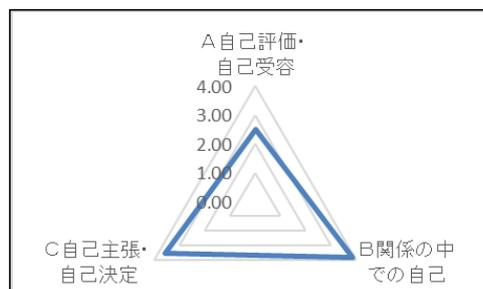
【図3】アンケートの回答結果

	集団傾向（7名）	個人の傾向
A自己評価・自己受容	3.29	2.50
B関係の中での自己	3.24	3.86
C自己主張・自己決定	3.33	3.57

【図4】集団の傾向と個人傾向の比較



【図5】集団傾向のグラフ



【図6】個人の傾向グラフ

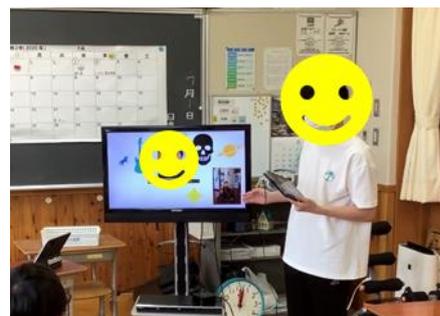
・活動の具体的内容

①学校生活を通して、自尊感情を高める。

○HRにおける報告コーナーの創設と発表

生徒が自分のがんばりを発表する機会をつくれるよう、毎朝のHRのトピックの一つに「報告コーナー」を創設した。対象生徒は、音楽・絵画・調理などの趣味をしたり、学習した内容に対しての家庭での取組もおこなっていたが、それをアウトプットする機会がなかったため、報告コーナーでの発表をする機会を作った。発表する際には、iPadの写真・ビデオなどを使用した

【図7】報告コーナーで発表する様子



○夏休み中の Teams 活用

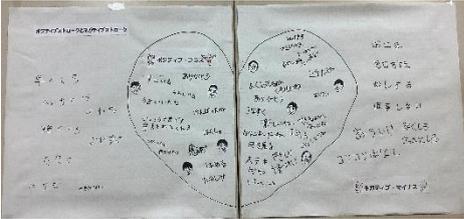
本人の興味関心の頑張りと自尊感情の向上を図るため、クラス全体で Teams の活用を図った。タブレット端末などへの取組が良いことなども踏まえ、日記コーナーなどをつくり日々の取組を紹介できるようにした。自尊感情尺度の「自己評価・自己受容」については教師との関係において影響が強いこと、また教師からの評価や言葉かけによる効果が期待できることを鑑みて、アップされた項目に関しては教師からのコメントを入れることとした。

また、対象生徒および他の生徒について、調理に関する意欲が高まっていたため、「くらし実技」という授業にてオリジナルレシピづくりを授業で実施し、それを夏休み中に作ってみることとした。対象生徒は、いなり寿司やブルーハワイなどを選択した。また、栄養教諭からは調理動画をアップしてもらうなど、調理に関する意欲を維持できるようにした。写真は、ブルーハワイを作ってアップしたもので有り、生徒からのコメントである。



【図8】夏休みのTeams活用の様子



<p>○自己 PR ボードの活用</p>	<p>教室背面に生徒一人ひとりが好きなこと・がんばったことを紹介できるボードを設置した。対象生徒は、絵に対する興味が強く、自信で好きな絵をためておくノートなどをもっているため、そこからおすすめの絵を掲示したり、掲示用の絵を作成したりした。</p>	 <p>【図9】生徒がPRボードに掲出した絵</p>
<p>○冬休み中のTeams活用</p>	<p>夏休み同様に、冬休みでもTeamsの活用をおこなった。夏休みにおこなった使用アンケートから、本人・保護者ともに家庭での取組をクラスで共有できることは有意義であると感じていたため、主に家事や思い出などを中心としたトピックを設けてTeams上にアップをすることとした。対象生徒の活用スキルも向上していたため、任意でインストールしていた「PicCollage」で冬休みの活動のまとめをおこなった。</p>	 <p>【図10】初詣の様子を「PicCollage」で作成したもの</p> 
<p>○ピアサポートの取組</p>	<p>学級での学習の時間を使って、クラス全体を対象として「ピアサポート」の取組をおこなった。私のハートや自己紹介、他己紹介、友達の良いところさがし、クラスの中の自分、ありがとうの花束、ポジティブストローク、いらいらしたときのリフレッシュなどについて学習をした。右図は、ポジティブストロークについて考えたものである。</p>	 <p>【図11】ポジティブストロークについて学んだことをまとめたもの</p>

②余暇の幅を広げるための基礎学力の向上を図る。

○個別学習における ICT を活用した読書活動の促進ならびに漢字学習

個別課題の時間（生徒の実態に合わせた学習の時間）を使って、読書・漢字学習をおこなう。読書については、対象生徒の興味関心のある書籍を選択し読むこととした。分からない言葉については「漢字画像検索」のアプリを使って写真を読み込み、読み方を調べたり、意味調べをおこなったりした。

また、漢字学習については検定合格を一つの目標にすることから、過去問の結果を踏まえて8級から9級を目指すための学習をおこなう。漢検の結果をもとに内容を見ると、「書き順」や漢字の成り立ちの部分ができていないため、画数が合わない・偏と旁を理解できていない等が見受けられた。「漢字画像検索」と合わせて「小学生漢字ドリル」も活用した。



【図12】漢字検索をしながら読書をする様子。



○読書について①

個別学習の時間では特に読書を中心に取り組んでいた。紹介したアプリの中で、対象生徒が一番使用しやすいと選んだのが「漢字画像検索」であった。読書については、生徒が自ら選んだ本の方が取り組みやすいと考え、「鬼滅の刃」の小説にしたが、かなり多くの難読漢字があり、苦勞している様子であった。アプリで写真を撮り、必要な語句の読み方を確認したり、意味を検索することができるようになっていた。それでも分からない言葉は、担任へ聞きにくるという形にした。

7月からはじめたが、9月の中旬に言葉の読みを聞きに生徒が来た際に、「躊躇って」という言葉が近くにあったため、「これってなんて読むの？」と聞いてみると「ためらって、です」と何の迷いもなく答えられていた。既に本の中に出てきている単語ではあるが、自らアプリで検索し学習した成果なのではないかと感じた。



	<p>また、アプリを使用して読書していることを学部内の会議で共有をしていたため、様子みた他クラスの教員が対象生徒に声をかけて賞賛している場面もみられモチベーションに繋がったと考えられる。</p>	
<p>○電子書籍の使用について</p>	<p>「漢字画像検索」を活用し、1冊読み終わった段階で、電子書籍についても取り入れた。既に漫画で電子書籍に触れたことがあったため、取りかかりも問題なく抵抗もないようだった。仕事についての意識が強かったようで、キャリア教育に関する本を選び個別課題の時間を中心に読んだ。</p>	 <p>【図13】電子書籍で読書をする様子</p> 
<p>○アプリを使ったイラスト作成</p>	<p>対象生徒は絵を描くことが好きでありイラストについてスケッチブックを使用して好きな絵や自分で考えて絵などを描くことが多かった。そこで、「MediBang Paint」のアプリを使用したイラストを紹介すると図11のような絵を描いた。</p>	 <p>【図14】生徒がイラストアプリで作成したイラスト</p> 

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

○7月から報告コーナーの設置をおこなったが、初期は、あまり手も挙げず、戸惑いながら発表をする様子が見られたが、9月からは色々な余暇に関する事、授業に関する事（調理関係や消毒に関する内容）にも、自ら家庭で取組をおこなったことを進んで発表する姿が見られていた。発表をする際には、写真やビデオ、keynote を使ってプロジェクタなどに映して発表することもあり、クラスの生徒も興味を持って発表を聞いたり、それを真似して別の日に発表をするなど、子ども達の学習の活性化に繋がった。

○今年度の学習・実践を通して、以下の数値では自己評価・自己受容の項目が下がっている結果ではあったが、学校生活全般で、自分から気持ちを立て直したり、肯定的な言葉かけによる安定はできてきたと感じる。

○1年間、係活動で号令係を担当していたが、実践当初よりも大きな声をだす意識を11月以降から持つことができていた。

○生徒会（副会長）への挑戦もあってか、自分のことだけではなく他者への関わりを受け入れたり、声かけをしたり、考えたりして過ごすことが多くなったように感じる。

○自尊感情に起因する内容として、対象生徒との日常会話を鑑みると学校生活だけではなく、放課後の活動（デイ等）での他校生徒との関わりによっても大きく左右されることがあると感じた。

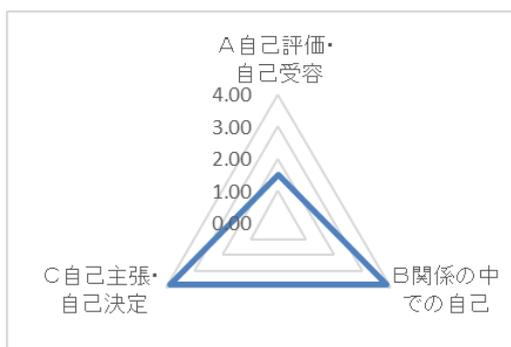
・エビデンス（具体的数値など）

○自尊感情尺度について

以下は、実践前（6月）と実践後（2月）の自尊感情尺度の得点変化である。「A自己評価・自己受容」について、実践前より低下していた。一方で、「C自己主張・自己決定」では3.57→3.86とあがっていることが分かった。アンケート実施中の様子を観察すると、回答にかなり悩んでいる様子であった。結果の数値は以下の通りではあるが、これまでの活動を振り返っているように感じた。また、現場実習や生徒会活動などを通して、全体的な要求水準（求められている活動）が高くなっていること、過去のうまくいかなかったできごとなどに起因していることが予測される。

	集団傾向		個人の傾向	
	実践前	実践後	実践前	実践後
A自己評価・自己受容	3.29	3.05	2.5	1.86
B関係の中での自己	3.24	3.12	3.86	3.86
C自己主張・自己決定	3.33	3.39	3.57	3.86

【図15】自尊感情尺度の実践前と実践後の比較



【図16】個人傾向のグラフ

自尊感情の傾向を把握するための「他者評価シート」の結果は以下の通りであった。すべての項目において挙がっていた。「落ち着き」というアンケートの項目要素では、「自分から気持ちを立て直す」と「一つの事を最後まで取り組む姿勢」の項目が向上していました。これまでは、対人関係などで不安定になるとそのまま続くことが多かったが、現在は自分の力で気持ちを立て直したり、前向きに行動することができるようになったことが要因としてあげられる。また、学級全体で実施をした「ピアサポート」の取組についても対象生徒はもちろん、クラス全体としても効果があったと考える。

名前等	1人への働き掛け	2大人との関係	3友達との関係	4落ち着き	5意欲	6場に合わせた行動
実践前	3.00	3.00	3.67	2.50	3.00	3.00
実践後	3.75	4.00	4.00	4.00	3.75	4.00

【図17】自尊感情の傾向を把握するための「他者評価シート」の結果比較

○模擬試験の実施について

微増ではあるが、6月におこなった模擬試験よりも点数が高くなっていった。特に、画数ではタブレットでの学習の成果も相まって結果が伸びていた。

2月12日実施の【9級】の模擬試験の点数内訳

読み①	画数	読み②	はね、とめ	音訓	書き①	偏と旁	対義語	書き②	合計
21/22	9/10	8/8	4/4	9/10	6/6	18/20	18/20	48/50	140/150

【参考】合格基準：満点150点の8割程度（120点）

・その他エピソード（画像などを含めて）

○家庭からのエピソード

①自尊感情について

12月の面談にて保護者より、「本人に自信をつけてほしいと願い入学をさせたが、いまでは自信がつきすぎているぐらいに感じている」という話があがった。本人は、イラストに関しての興味関心が強く、この1年間でイラストについてより深く学習に取り組みたいと感じるようになったという。専門学校に行きたい、ということも強く希望しているようで、その点から自信を持てるようになったのでは、と保護者が感じている。

②漢字学習について

夏休み前後は、家庭での学習はほとんどなく、読書やイラストを描くことが中心であったが、学校での漢字学習をする習慣の定着やアプリの活用を通してや、検定に向けた意識の向上から、「家庭で一人で留守番をしているときも、自分で漢字の勉強をするようになった」や「休日は漢字検定の過去問を一生懸命やっていました」という記述が多くなっていった。

③余暇活動について

イラストについては、生徒会の活動で感染症対策のポスターを作成した際、小学生のことを考えてイラストを工夫したり、絵の工夫をしたりして賞賛を受けていた。自分の得意なことを活かした経験は余暇の一環としてだけでなく、得意なことへ変化し、自信や自尊感情の高まりにも繋がったと考えられる。また、イラストに関してより専門的なことを学びたいと考え、通信講座にも取り組み始めた。趣味や好きなことというだけでなく、これまでの活動が自信となり、「もっとうまくなりたい」という気持ちへと発展したと考える。

○今後に向けた取組について

今回の結果などを踏まえて、引き続き本人の興味・関心を踏まえ本人が「やりたい」「やってみたい」という気持ちや、がんばれたらやることができたという経験を増やしていくことができればと考える。自分にとっての「プラス体験」を増やすことによって自尊感情を高めていきたい。また、言語でのやりとりを十分できるので、定期的な面談を通してニーズや本人の気持ちを押さえつつ、「なりたい自分」をイメージし点数化して自分の目標に近づけるよう支援したい。